

3 募集に応募した者
(秋田市農業委員会の委員候補者の推薦および募集に関する要綱第3条第3項)

	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募	応募理由
					年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模			
1	佐々木 英久	男	76	農業	S45.6 H15.6 H24.6 H26.7 H29.7	旧農協より総代 J A新あきた東部地区総代会、支部 長会会長兼任 J A新あきた理事に就任 秋田市農業委員会（1号委員） 新体制による農業委員就任、現在に 至る。	水稲	11.5ha	認定を 受けて いる	応募し ていな い	昨年2月24日、ロシアによるウクライナへの侵略戦争が勃発し今も続いている。現代グローバル化世界は突然の戦争の為エネルギー、小麦食料品、はては、私たち農家の生産資材、肥料、農薬全てが高騰となった。資源国の強みを厭と言うほどに見せつけられた。国内農業の崩壊が加速している現状でも私たちは自国の食料生産現場の田地を守り新規就農者、若者の後継者との繋がりを大切にこれらの手助けをしていきたい。多岐にわたって課題はあるが県都秋田市の緑豊かな田園風景を絶やすことなく維持発展するように尽くしてまいります。
2	下田 和昭	男	72	無職	S49.3 H8.2 H11.6 H15.3 H17.4 H22.7 H28.2 H30.4 R2.10	駒澤大学経営学部卒業 (株)秋田銀行土崎支店 副長 (株)秋田銀行弘前支店 次長 (株)秋田銀行桜支店 支店長 (株)秋田ジェーシーピーカード 調査部 次長 (株)秋田銀行 営業本部営業支援 部 調査役 (有)ケアマネジメント 総務部 部長 秋田市都市計画審議会委員 秋田市都市環境の創造および保全に 関する審議会委員（現在2期目）	経営していない		認定を 受けて いない	応募し ていな い	1 母が四ツ小屋の専業農家の出身で春先と収穫期には家族全員で手伝いに行っていました。幼かったためかすかな記憶ですが、苗投げや稲運びなどを手伝った思い出があります。 2 妻は外旭川の兼業農家が実家で、農作業について今でも機会あるごとに話しをします。繁忙期には学校を休んで手伝ったことや、いつも雨に悩まされたことや、父親の稲作りへの考え方等です。 3 現役時代転勤を9回重ねたがお陰で各地の農作物を見聞きし味わうことができました。札幌市北区の広大な土地に転がっている「玉葱」、弘前のアップルロード沿いのたわわな「リンゴ」、由利本荘地区のおいしい「お米」等が特に印象に残っています。 4 当学区にある泉小学校においては、サツマイモの根付から芋掘りまでの作業を毎年地区有志のもと体験学習を行っています。又、小学校隣のハミングロードにはリンゴの木があり袋掛けや収穫を指導者のもと経験しています。農作業の一端を学童期に少しでも体験できることは大変良いことだと思います。 5 以上農業に関することを思いつくまま列挙してみました。人間が生きていく上で重要な毎日食べている食物について、基本的知識が乏しいということを改めて認識しています。遅まきながら農業について見聞きする機会を意図的に設け少しでも常識的知識を広げていきたいなと思っています。 6 今農業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。少子高齢化・後継者不足・産地間競争・流通革命等様々な問題・課題が山積しております。個々での努力も大切ですが行政や諸団体が一体となって早急に取り組んでいかなければいけないと思います。 7 秋田においては「サキホコレ」の販路開拓や特産品の発掘、現金収入の拡大など喫緊の課題として各方面で取り組まれています。私のこれまでの経験の中で少しでも役立つことと参考になると思われることがあれば、積極的に発信して行きたいと考えております。

	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募	応募理由
					年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模			
3	高橋 修	男	73	無職	S48.3 S48.4 H7.4 H11.4 H14.4 H20.7 H23.4～R3.3 H24.4～H25.3 H25.4～H28.3	日本大学農獣医学部獣医学科卒 秋田県農政部入庁 秋田県農政部畜産課 課長補佐 秋田県南部家畜保健衛生所 次長 秋田県中央家畜保健衛生所 主幹 秋田県南部家畜保健衛生所 所長 秋田県調理師専門学校 専任講師 秋田市横森二丁目町内会長 秋田東警察署警察協議会委員	経営していない		認定を受けていない	応募していない	私は昭和48年から平成23年まで秋田県農林水産部の職員として、農畜産業の振興、農畜産物の流通、家畜改良増殖、家畜伝染病予防に係る業務に携わってきました。今年3月、秋田市役所発行の「広報あきた・市役所からのお知らせ欄」に農業委員。農地利用最適化推進委員募集の記事が載っていたのを見て、何か自分ができることがないものか、もっと農業について理解を深めてみたいと思う気持ちが強くなり、今回、農業委員に応募するに至りました。 現在、農業をめぐる環境は大変厳しいものがあると感じています。農政には様々な問題や課題がありますが、その中で最も大きな課題として挙げられるのは農地をいかにして有効利用していくのかということ、さらには、それを利用する担い手の確保が最も重要なことと考えております。 秋田県の農業はその後継者が長男であることが多く、その担い手の高齢化が進むことにより、円滑な農業経営が出来なくなってしまうという問題があると思います。つまり、先祖代々の耕作地を売却したり、譲渡したりするのをためらうことなどによる耕作放棄地問題や農業の継承問題が重要な課題になっているのだと思います。 これらの問題や課題を解決するために農業委員会の役割はとても大きなものがあると考えております。私は農業の担い手ではありませんが、これらの問題や課題を中立的な立場で何かしらお手伝いをしていくことができれば幸いと考えております。 どうぞよろしく願いたします。
4	武藤 真作	男	70	農業	S51.6～8 H11.4～H15.3 H19.4～H25.11 H25.12～現在 H26.7～現在 H28.8～H29.4 R3.2～R3.8 R3.10～R4.3 R1.6～現在	第10回総理府青年の船参加 秋田市議会議員 集落営農組織 白華の里生産組合代表 農事組合法人 白華の郷代表理事 秋田市農業委員 秋田市都市農村交流マスタープラン 策定検討委員会委員 秋田市農山村資源活用基本構想検討委員会 第2次秋田市都市農村交流マスタープラン策定検討委員会委員 秋田市さびあ活性化協議会委員	水稲、大豆、野菜、そば、いちご	約70ha	認定を受けている	応募していない	パブル崩壊とほぼ同時期に、専業農家として農業に従事する道を選択し、地区の農家の先頭に立って生産活動を続けてきました。 農業の最大の魅力は、自然の中で田畑と共に生活できる喜びであり、自然の恵みを享受できることにありと思っています。しかし時には自然が巻き起こす森羅万象や、様々な社会現象に翻弄され、農家の描く理想や、楽しんで農業が出来る環境にはなかなか届かないのが現実であります。 高齢化の進展により、秋田市の農業も後継者や担い手不足に対する対策は喫緊の課題であり、深刻な状況にあると考えています。昨年12月に園芸振興センターの研修生と交流する機会がありました。それぞれが将来の夢を語っていましたが、専門的な場で、農業について学んできて、単純にすぐに農業が出来るわけではありません。農地の確保、技術、資金等、新規の就農にクリアすべき課題は多く、相当な準備と覚悟が必要です。それらの課題を少しずつ軽減していく努力は、国や地方の自治体に任せるのではなく、私たち経験者がしなければなりません。 意欲ある担い手や新規就農者が望む環境作りを率先して支援していきたいと思っています。 本市も第6次農林水産業・農村振興基本計画を策定し、農村の活性化を図り、農業の持続的な成長・発展を描いていますが、稲作を主体とする農業からの大転換が最も重要です。複合的な経営を促し、誘導するための有効的な施策が求められます。私も令和2年から秋田市では初めての高設養液栽培によるイチゴの生産に取り組み3度目の収穫を迎えております。新しいものに取り組むことは、リスクも抱えることにはなりますが、農業も挑戦することによって少しずつ変えていかなければなりません。都市近郊農業として、限られた選択肢の中で、農家にとってより有利な方向で複合経営が推進できるよう提言をしていきたいと思っています。 経営規模の拡大あるいは法人化によって、作業の効率化や省略化は必要不可欠なものとなってしまいました。法人化をしても、簡単に労働力不足は解消されませんが、スマート農業の推進はこれからの農業において、欠かせないものとなってきつつあります。ICTを利用した農業機械の導入により、省力化と生産性を高めることは、農業の姿を大きく変えることになるかもしれません。世代を超えて、スマート農業推進に取り組んでみたいと思います。

	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募	応募理由
					年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模			
5	鈴木 雄太	男	34	農業	H20.3 H24.3 H24.4 H25.9 H28.1 R2.4 R5.4	東京都立小松川高等学校卒業 駒澤大学文学部歴史学科日本史学専攻卒業 株式会社フィナンシャル・エージェンシー入社 インク・エンティア・ヘルス・ジャパン合同会社入社 アストラゼネカ株式会社入社 (株) ベジリンクあきた男鹿入社 養父家にて営農中 現在に至る	水稲	2ha	認定を受けていない	応募していない	大きく以下3点に取り組みたく応募致しました。①「人・農地プラン」の適宜見直し、②担い手への農地集積と集約、③新規参入者の拡大と促進、以上を軸に据えた活動を実践したく応募致します。 ①「人・農地プラン」の適宜見直し 市内各地で圃場整備事業が推進される中、整備後の営農に確実な予測を立てる為、プランの定期的な見直しを実施することで今後の農業の礎としたい。具体的には推進委員と協力の上、現場でのヒアリングをこまめに行うことを基本に、アンケートの実施などを通じて適正なプランを常に提示・運用できる状態を堅持したい。 ②担い手への農地集積と集約・休耕田の解消 既に飯島エリアは保坂推進委員のご尽力があり、休耕田の解消に向けた取り組みがなされております。その活動を推進委員と共にさらに加速させていきたい。解消の為に生産者間のつながりが一番の効果があるとの思いを強く持ち、地権者と担い手のマッチングを圃場1箇所ずつ取り組んでいきたい。 ③新規参入者の拡大と促進 私自身が新規就農者であった経験を最大限に活かし参入者との積極的なコンタクトを取ることで定着を促進していきたい。私自身が就農する段階では農業公社の方々に大変お世話になった経緯があり、僭越ながら農業公社のホームページ上で自身の活動を掲載して頂いております。今後も積極的なコンタクトを取りながら新規参入者に寄り添える活動をしていきたい。その他、公社以外にも大学生やネットを通じた方など多様なチャンネルから新規就農を希望する方がおり、多くの不安や疑問あり、個人的にも同様の悩みがあったことを思い返しながら、まずはその【窓口】になるとの思いで接していきたい。「新規参入者に開かれた秋田市」になるとの思いを持ちながら、将来の農業発展の為に就農者の拡大を目指したい。 抱負 男鹿市若美を中心に、一部大潟村にまたがる農業法人で3年間修行して参りました。同地区ではすでにメロンやキャベツ・アスパラ等の園芸作物栽培やタマネギ・大豆での水田利活用、1経営体が100ha超に及ぶ大規模営農が進んでおり、地区外・県外への積極的な視察、大学関係者を交えた座学にも力を入れる姿勢、農業の更なる発展と休耕田回避の方策、生産者間の強力なつながり、新規就農者を迎え入れる姿勢等を勉強させて頂きました。その過程で多くの方々との交流もあり、今後も連携して下さるとの心強いお言葉を頂戴致しました。その経験や交流を秋田市に還元して参りたい。まだまだ若輩であり、全くの微力になりますが秋田市農業発展に自身の経験が寄与できるのではと考え、農業委員会に応募をさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。